



会津医療センターから こんにちは！



リハビリテーション科
【16】主任医療技師（作業療法士）
半谷 智辰

『その人らしさを支える』

リハビリテーション（リハビリ）と聞くとどんなイメージを持ちますか？
「スポーツ選手がケガから復帰する」「病気やケガをした人が筋力強化をする、歩く練習をする」といった機能回復のイメージがあるのではないのでしょうか。

リハビリテーション（Rehabilitation）とは、re（再び、戻す）とhabilis（適した、ふさわしい）という意味を持っています。これは単なる機能回復をして元の状態に戻すことだけではなく、その人が「生きがい」や「役割」を持って、自分らしい暮らしを住み慣れた地域で続けることも含んでおり、そのために行われる治療やトレーニングの全てがリハビリとなります。

先日、腰の疾患により手術目的で入院した60代の男性の患者さん（Aさん）を受け持つ機会がありました。Aさんは足に痛みやしびれがあり、病室内程度の歩行は可能でしたが、それ以上歩こうとすると痛みが強くなり、歩くのが困難な状態でした。手術翌日のリハビリでは痛いと言いつつも「俺の母ちゃん（Aさんの妻）は、花火が大好きなんだ。今年は大曲の花火大会に連れて行く約束したから、俺もリハビリ頑張らんなくちゃいけねんだ」と話してくれました。

Aさんは通常行われるリハビリの他に、自分の部屋でもストレッチや筋力トレーニングなど、奥さんとの約束を果たすべく一生懸命リハビリに取り組みました。奥さんと一緒に花火大会に行き、喜んでもらうことがAさんにとっての「生きがい」となっているのだと思います。そして、その「生きがい」を通じてAさん自身、人生の意味や価値を見いだすことにつながっているのだと思います。

リハビリテーション科ではその人らしい人生が送れるよう、「生きがい」や「役割」などを日々考えながらリハビリを提供しています。その人の人生に寄り添い、“その人らしさを支える”ことで地域に貢献していきたいと思ひます。